

京都教区時報

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp>

3頁 生涯養成講座「妖怪の棲む教会」読書会

6頁 教区カトリック協議会「ブロック宣教計画を」

発行 京都司教区
責任者 村上透磨
京都市中京区河原町
三条上ル
カトリック会館
FAX
075-211-3041
「教区時報」宛と明記

点訳版「京都教区時報」(無料)
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまで申込みください。

TEL・FAX 0794-31-8601

教会刷新

刷新」といふと新たにすること

ですが、一九六二年から一九六五年にかけて開かれた第一バチ

カン公会議の教会刷新は、むしろ新しいものを古くするという

動きでした。

どういうことかといふと、時

剥ぎ取り、本来の姿にもどす動きでした。本来の姿とは、初代教会

の姿に立ち返ることで、聖書の教

えによって問い合わせました。

日本にもたらされた教会の姿は

トリエント公会議にもとづくものでした。それは、プロテスタント

運動によって教会が分裂したため

に、カトリック教会の独自性を明確にし、教えを守ることを中心とした教会でした。

(写真は第二バチカン公会議全体会議の風景です)

2
2003



そのため、日本で刷新といふと、まさに新たにする動きとして受け取られ、伝統的な教えを守ろうとする動きもみられました。

社会に開かれた教会になろうとする動きは、本来の姿にもどろうとする教会刷新なのです。

(写真は第二バチカン公会議全体会議の風景です)

共同宣教司牧司教訪問

三重地区・中勢ブロック

三重中勢ブロックの司教訪問は、十一月七日に津教会で、津、上野、名張、久居の各小教区から、滞日外国人、子どもを含めた総勢約二百七十名の参加者が集まる中、午後一時に莊厳なミサで始まりました。

マタイによる福音二十五章十四～三十（主人から預かった一タラントのお金を生かさず、減らすまいとして地の中に隠し持つていて、主人から追放されてしまった男の話）から司教様は、「この例え話は、今の宣教司牧に対する私たちへの示唆を与えていました。信者一人ひとりは宣教のために神の導きを受けたのです。どうかその恵みを自分のための信仰にのみ生かすのでなく、広く社会に向けて伝え、証するものとして生かして欲しいのです」との説教がありました。

ミサ後の十分間の休憩は、元気な名張の青年によるバンド演奏によって司教対話会へと引き継がれました。

対話会は、①将来の教会を担う

青少年への対応、②滞日外国人への対応（滞日外国人と共に生きるために）③宣教への取り組みの弱さ、④信仰を深めるための生涯の努力、⑤支え合う共同体づくりというテーマで各教会が発表しました。

また中勢ブロックとしてこれまで取り組んできたこと、取組の弱かつたことの現状と評価、課題が報告されました。

司教様は、信者自身が客観的にこれまでの取組を評価し、問題を提起できること、また、廃止された保育園を母親達の子育ての場に提供し、家庭で孤立しがちなお母さんがたのコミュニケーションの場としている等、司教様自身が気が付かなかつたような提案がなされたことに、今後の期待が持てるべられました。

続いての質疑応答は八項目にわたる率直な質問が出され、時間的制約の中にも司教様は熱心に答弁され、ともすれば儀礼的になりがちな訪問を実のあるものにしようとする司教様の対応に、私たち信者に対する期待と、教区が今日的な現状打開への道筋を得たいとする熱意を感じた一日でありました。

共同宣教司牧司教訪問

滋賀地区・湖西ブロック

十一月十日（日）に大津教会で行われ、現状と活動の評価について次のように報告がされました。

（1） 信仰教育

できていること。聖書を読み神のみことば、働きを感じる。父、母、祖父母の姿を通して信仰を学ぶ。

未信者の子供たちが日曜日のミサに参加し、神に接する機会をもつ。

ができるないこと。聖書をもつて、環境問題の学習と実践。

未信者の子供たちが日曜日のミサに参加し、神に接する機会をもつ。

ができるないこと。聖書をもつて、環境問題の学習と実践。

未信者の子供たちが日曜日のミサに参加し、神に接する機会をもつ。

ができるないこと。聖書をもつて、環境問題の学習と実践。

未信者の子供たちが日曜日のミサに参加し、神に接する機会をもつ。

ができるないこと。聖書をもつて、環境問題の学習と実践。

未信者の子供たちが日曜日のミサに参加し、神に接する機会をもつ。

ができるないこと。聖書をもつて、環境問題の学習と実践。

未信者の子供たちが日曜日のミサに参加し、神に接する機会をもつ。

する考え方、病者への塗油の秘跡についての教育。音楽を通じた典礼の刷新。

（3） 社会とともに

できていること。老人ホームや病院訪問、ウォーカソンによる募金。地域の社会福祉施設への寄付。

ができるないこと。社会のそれぞの場で働いているキリストを見い出すこと。家族関係の中で相手の立場を理解すること。地域における外部への働きかけ、地域に向けたメッセージ。環境問題の家庭、地域、学校、教会での取組み。

（4） 共同体

できていること。お年寄り、在日外国人も同じ教会の一員として受け入れられている。

できていないこと。お互いが対話をし共同体としての靈性を深めること。共同体において、聖霊の働きを意識すること。

全体総括としては、「信仰の喜び」を実感し、分かち合い、伝えるために、われわれにできることは何かをもっと探す必要がある。

（大津教会 村田）



妖怪の棲む教会——読書会——

京都南部地区北ブロック小山教会
(聖ヴィンセント・シオの愛徳姉妹会)

橋本瑠璃子

『妖怪の棲む教会』(中川明著: 夢窓庵発行)見るからに読者の好奇心をそぞるようなタイトルに、つい手を出してみる。どれどれ、どこにそんな教会があるのかね、妖怪、妖怪、どこから出てくるのかね、と読み進むうちに、なんのその大まじめな内容。さすが司教さんのブレーンとうわざされた方、現状分析と課題を分かりやすく説明される。ちなみに、この本のサブタイトルは、——ナイスを超えて『はてしない物語』を引用して、私たちにとって辛いけれど、危機的状況にある日本の教会の現状を正視しないと、明日の教会を描けない、といわれる。

このような案内で、八月から十一月まで月二回、金曜日夜、進行をルカ師にお願いして『妖怪の棲む教会』の読書会を行った。

第一部、「ゆきづまつた日本の

教会」では、戦後の日本の教会史を振り返りながら、戦後復興期の窮乏時における教会の急成長は、窮乏と規範喪失に教会がみごとに応えてきた。その急成長のかけに、外国からの人的物的資源の大量の投資があつたからだと分析している。第一部の分かち合いの中で、参加者のある人々は、この復興期に洗礼を受けた方が、あの当時は、何を頼りに生きてゆけばよいかわからなかつた。「もう世間で生活できない。世間の生活に帰れない」と思ったからいつも教会に行つて祈つてたといつてはいる。また、「ボクらは、バチカン公会議の熱心な教育を神学校で受け、ヨーロッパでは神父があつれていたので、みなミッションを希望して外国に出かけたね」。著者の分析のように、規範喪失に応え、外国の人的、経済的資源の投資に恵まれてきた。

「昔の宣教師は夢中になつてやつてくれたが、日本の思想ではなかつ

た。西洋の哲学に基づいた話は私にはむずかしかつた」と。ナイフのインカルチュレーションも、ここでも素通りした感をうけた。そこで「お伺いを立てることで、与えられて、「お伺いを立てる」信仰は、自立した信仰を育むことができなかつた。

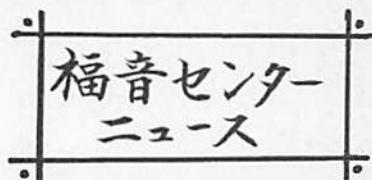
第二部「救いの場を求めて」では、人間の視野の狭さが神の挑戦を受け続ける。わたしたちの狭さは頑固な現実、この現実への挑戦が救いへの道である。キリスト教は、救いへの安易な解決を与えることと強調する。

頑固な現実は、「日本的日本人の心、『何とかなるさ』というハッピーエンドを信じて、この心からなかなか変わらない」「自分を開けない、分かち合いかでできない」。正面から付き合うと傷つく恐れがあるから、現実から逃避することが多いなどの分かち合いから、ますます「人間の視野の狭さが神の挑戦を受け続ける」と感じる。

第三部「救い」をもたらす場としての「妖怪の棲む教会」いよいよこの本のクライマックスである。あなたにとって妖怪とはなんですか?あなたの教会にとって妖怪とはなんですか?「私にとって妖怪とは何か」という問いは、

「私の日々の日常世界を破壊するのではないかと、恐怖する対象は何か」という問い合わせもあるのだ、といつてはいる。私の心の壁にかかる現実がわかつた」、「公会議前と公会議後の違いがわかつた」、「教会はインテリの教会になつた」。ひとつつのファンションみたいになつていて、「日本人の心にしつくりと落ちていなかつた」、また「わたしが大きな困難にあつていていたとき、教会で話して大きな支えと力をいただいた。そのときに信仰の共同体のありがたさを感じた」などなどの分かちあいがなされた。日本は地理的にアジアに属しているながら、そのメンタリティーはアジア人ではない。ヨーロッパ・アメリカから移植された信仰と文化を受け継いでいるが、そのメンタリティーは欧米人のそれではない。そこには、アジアに居住している異人のような存在になつてゐるのではないだろうか。アジアと連帯する教会のなかで、足下にも妖怪がと思う。

養成コース
典礼研修案内



ミサが目指している体験

ミサは主のゆるしといやしを共に願う体験
ともに心を込めてみ言葉を聞く体験
ありのままを神にささげる体験
世界の人々と連帯して祈る体験
希望と自由を共に分かち合い喜ぶ体験

ミサが秘めている豊かさと深さ、広がり、力強さを学び、もう一度味わって
みませんか

ご参加をお待ちしています。

大好評につき再度開催

生活とミサのつながりを実感したい方
ミサの中身を知り、味わいたい方
ミサを他の人にわかりやすく紹介したい方
聖体奉仕・集会司式者など、典礼奉仕に携わっておられる方

日 時 3月22日（土） 10時30分～16時（含 ミサ）

講 師 講師（大阪教区）

会 場 カトリック福音センター

会 費 1000円（昼食代含む）



申込み 3月10日（月）迄に

郵便番号・住所・氏名・電話/Fax番号・メールアドレス・所属教会をご記入のうえ

参加費 1000円を添えてお申し込み下さい。

（小教区単位でお申し込み頂いても結構です。但し明細は別途添付して下さい）

郵便振替口座 00920-4-161844 「カトリック福音センター養成コース」宛

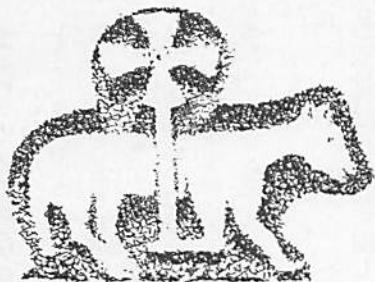


お問い合わせ

〒604-8855 京都市中京区壬生淵田町26 カトリック福音センター

電話 075-822-7123 Fax 075-822-7020

E-mail fukuin@kyoto.catholic.jp



このいけにえはただ一度 御自身を獻げることによって 成し遂げられた (ヘブライ7・27)

いけにえ?

イエス様の十字架上の死を「いけにえ」と表現したのはパウロですが、「いけにえ」というのは農耕民族であるわたしたちにはあまり馴染みがありません。それどころか、この言葉のもつ血みどろのイメージは、「キリスト教はやっぱり外国の宗教」という思いに拍車をかけ人々をキリスト教から遠ざけてしまいかねません。にもかかわらず、少し立ち止まって「いけにえ」の意味を探れば、パウロがなぜイエス様の死をいけにえとしたか、あるいはその死を記念するミサの表現のひとつがなぜ「いけにえ」とされるのかが多少とも理解できるでしょう。

新しい子羊

古代社会での「いけにえ」の役割は神と人との橋渡しでした。人々は犠牲として殺された動物をみんなで食することによって神と交わり、さらに相互の交わりを更新しました。人々はいけにえを食べることで供え物と一体となり、これを受け入れる神と一致していけにえが目指す効果にあづかろうとしたのです。

イエス様はこのような「いけにえ」にご自分の死を重ねあわされます。それは創世記で描かれた神と人との断絶に橋渡しをするためでした。しかもこのいけにえは「過越祭」のときに捧げられました。ユダヤ人がエジプトの奴隸状態から解放されたことを記念する過越祭で捧げられる子羊の代わりに、イエス様はご自分を差し出されました。ですからそのいけにえは「新しい解放」をもたらし、わたしたちが再び神の子として「神の国の宴」にあづかることを可能にしてくれるのです。

パンとブドウ酒

この「いけにえ」を食べるため、イエス様はすばらしい方法を残してくださいました。人々が毎日食べるパンとブドウ酒をご自分の体としてくださったのです。

ミサでパンとブドウ酒をいただくとき、わたしたちは、わたしたちのためにご自分を差し出されたイエス様をいただきます。そこにはもう血まみれの犠牲はありません。平凡な日常生活の中に主の犠牲が組み込まれ、わたしたちはそこで主とひとつになることができるようになりました。

けれど決して忘れてならないことは、そのパンは裂かれたパンであり、イエス様の碎かれた体であることです。そのパンを食するわたしたちは「神の国の宴」にあづかると同時に、主とともに裂かれたパンとして自分を人々に差し出すよう招かれているのです。

教区カトリック協議会

ブロック毎の宣教計画を作成するように

十月十九日(土)河原町会館六階ホールで行われた第十四回カトリック京都司教区・教区カトリック協議会の内容を報告します。正式な議事録は各小教区・修道院に送付されます。

議事

I. 共同宣教司牧推進に関する①「共同宣教司牧推進チーム」の役割について(Fr西野)

- ・各地区三名の代表者と司祭二名で構成されているが、推進チームというネーミングから推進の責任者あるいは当事者と受け取られているようである。しかし今まで、推進の主体は地区的信徒・司祭・修道者であることを念頭においていただきたい。
- ・推進チームは関係者に各地区の試みなどの情報をお知らせしながら、共同宣教司牧の発展に力を尽くすことを目的としている。
- ・地区的共同宣教司牧の状況についてまとめ、識別し、年一回文書で地区長に報告をし、必要あるときは地区長に提言する。

II. 五つの地区の課題に対する提案(司教)

前回協議会において継続して取り組んでほしいとお願いしている各地区的課題について、より具体的な次につなげるため、各地区・ブロックの宣教計画を作る提案がつぎのとおり司教よりなされた。

①宣教計画策定の前提として、共同体の歩みの振り返り、現状の認識

を踏まえた上、そこから見えてきた良い点、改善すべき点について具体的な策定をし、新しい試みとしての宣教活動を推し進める。
 ②宣教活動計画は次の二つに大別される。
 長期：福音化する共同体になると、推進チームのメンバーは各地区の諸会議に参加するようにしていられるが、資格はあくまでオブザーバーである。

③信徒の養成がより大切なものとなり深みのある目標が設定できる。
 ④出席者【主宰者】大塚喜直司教
 【三重代表】田平雅明・森茂巳・Sr安部カノ・Fr村上透磨【奈良代表】田尻浩二・友村忠司・Sr深堀光子(Sr片岡八重子代理)・FrKタロク【滋賀代表】高木康裕・Sr黒朝子・Fr瀧野正三郎【京都北部代表】浜口昇・関ワカ子・FrN・レサール【京都南部代表】角元義明・林達郎・Sr築山しおぶ(Sr三宅さつき代理)・Fr福岡一穂【福音センター】Sr安井昌子
 【青年センター】土岐仁美【PAGASA】河野アメリア(清水アンドレア代理)
 【司教総代理】Fr村上真理雄(議長)【本部事務局長】Fr北村善朗
 【オブザーバー共同宣教司牧推進チーム】Fr西野猛生【書記局】Sr吉國正子・小木曾弘子・奥本裕・湊路易
 欠席者: 頃常順吉(滋賀協議会信徒代表)、Frブルーノ・ロハスクモデラトルの意見を聴いた上で正式に依頼するものである。

参加者から次の意見が出された。
 ①殆どの出席者からは賛成。
 ②単なる行事の羅列ではなく、より深いものがある目標が設定できる。
 ③信徒の養成がより大切なものとなってくる。
 ④出席者【主宰者】大塚喜直司教
 【三重代表】田平雅明・森茂巳・Sr安部カノ・Fr村上透磨【奈良代表】田尻浩二・友村忠司・Sr深堀光子(Sr片岡八重子代理)・FrKタロク【滋賀代表】高木康裕・Sr黒朝子・Fr瀧野正三郎【京都北部代表】浜口昇・関ワカ子・FrN・レサール【京都南部代表】角元義明・林達郎・Sr築山しおぶ(Sr三宅さつき代理)・Fr福岡一穂【福音センター】Sr安井昌子
 【青年センター】土岐仁美【PAGASA】河野アメリア(清水アンドレア代理)
 【司教総代理】Fr村上真理雄(議長)【本部事務局長】Fr北村善朗
 【オブザーバー共同宣教司牧推進チーム】Fr西野猛生【書記局】Sr吉國正子・小木曾弘子・奥本裕・湊路易
 欠席者: 頃常順吉(滋賀協議会信徒代表)、Frブルーノ・ロハスクモデラトルの意見を聴いた上で正式に依頼するものである。

福祉の窓

南勢カトリック 特別養護老人ホーム

地域に果たす事業と福音

老人福祉事業も時の流れと社会情勢によって大きく変わってきました。高齢者社会の中で家族の都合上やむを得ず独居生活を営む人々や、またホームレスに至る人々が存在し、身体的・精神的・経済的・家庭的など介護や援助を求め必要とする時、社会福祉事業や施設の役割が重要です。私どもの南勢カトリック特別養護老人ホームは、社会福祉法人聖ヨゼフ会松阪によって現在指定介護老人福祉施設として利用定員九十名で事業経営をしています。その他、在宅介護事業としてホームヘルプ事業・デイサービス事業・ショートステイ事業・居宅支援事業も平行して事業展開をしているところです。松阪教会の地域に、カトリックの養老園としてスタートして約四十三年間宣教司牧の一端として役割を果たしてきましたところであります。

(高木章吉)

当老人ホームを、地域社会の中で今日まで信者・未信者問わず高齢者の援助事業として支え貢献していただいたのがウイチタの聖ヨゼフ修道会です。キリストの福音を伝え、愛の実践として宣教活動をしてきました。さて、弱者である高齢者は心身の変化も激しく、居宅で介護サービスを求める人々は、対象者のニーズも増大し、また求められる介護サービスも多様化しています。

当老人ホームは施設の介護機能と在宅介護サービス機能を同時に備え、高齢者の総合施設として事業に取り組んでいます。介護保険事業所になった今、行政区域の垣根がなくなり信徒の方々も自由に利用できるようになり、地域性や利便性は介護保険制度の良い結果であります。一面、老人福祉時代と違い民間企業も事業に参加する時代になります。私たちの施設は常に援助を必要としている人々に援助や支援を通して、また日々愛の実践を通じて社会に生かされた福音として事業活動に励んでいます。

京都教区・外国語ミサ

英語ミサ (ENGLISH)

- SAIN CHURCH 西院教会 ~PAG-ASA COMMUNITY 每週日曜日、PM 3:00
- Every Sun. 3 p.m.
- FRANCISCAN HOUSE Every Wed. 3 p.m.
- NISHI MAIZURU CHURCH Every First Sun. 3 p.m.
- KUSATSU CHURCH Every Fourth Sun. 2 p.m.
- NARA CHURCH Every Last Sun. 3 p.m.
- YAGI CHURCH Every Third Sun. 2 p.m.
- KORIYAMA CHURCH Every Wed. 3.30 p.m.
- TSU CHURCH Every Second Sun. 2 p.m.
- YOKKAICHI CHURCH Every Third Sun. 1 p.m.
- SUZUKA CHURCH Every First Sun. 2 p.m.
- KAMEYAMA CHURCH Every Second Sun. 9 a.m.
- MATSUSAKA CHURCH Every first Sun. 2 p.m.

韓国語ミサ (한국어미사)

京都コリアン・カトリックセンター
第1日曜日 午前10時

スペイン語ミサ (ESPAÑOL)

Iglesia de FUSHIMI 伏見教会
Segundo Domingo del mes 2 p.m. 第2日曜日、PM 2:00

Iglesia de KUSATSU

Tercer Domingo del mes 2.30 p.m. 第3日曜日、PM 2:30

Iglesia de NAGAHAMA

長浜教会

Tercer Domingo del mes 2 p.m. 第3日曜日、PM 2:00

Iglesia de SUZUKA

鈴鹿教会

Segundo y Tercer Domingo del mes 2 p.m.

第2・3日曜日、PM 2:00

Iglesia de KAMEYAMA

龜山教会

Cuarto Domingo del mes 9 a.m. 第4日曜日、AM 9:00

Iglesia de TSU

津教会

Cuarto Domingo del mes 2 p.m. 第4日曜日、PM 2:00

Iglesia de YAGI

大和八木教会

Primer Domingo del mes 2 p.m. 第1日曜日、PM 2:00

Iglesia de NISHI YAMATO

西大和教会

Segundo Domingo del mes 3 p.m. 第2日曜日、PM 3:00

Iglesia de YOKKAICHI

四日市教会

Cuarto Domingo del mes 12 a.m. 第4日曜日、AM 12:00

ポルトガル語ミサ (PORTUGUES)

- Igreja paroquial do KUSATSU 草津教会
Segundo Domingo do mes 2 p.m. 第2日曜日、PM 2:00
- Igreja paroquial do HIKONE 彦根教会
Quarto Domingo do mes 11 a.m. 第4日曜日、AM 11:00
- Igreja paroquial do YOKKAICHI 四日市教会
Primer Segundo Domingo do mes 4 p.m. 第1・2日曜日、PM 4:00
- Igreja paroquial do SUZUKA 鈴鹿教会
Todos los Domingos do mes 6 p.m.

毎週日曜日、PM 6:00

- Igreja paroquial do KAMEYAMA 龟山教会
Primer Domingo do mes 9 a.m. 第1日曜日、AM 9:00
- Iglesia de paroquial UENO 上野教会
Tercer Sabado del mes 7.30 p.m. 第3土曜日、PM 7:30

お
知
ら
せ

福音センターから

◆養成コース▼沈黙の祈り1月31日、2月14日、2月28日、3月14日、4月11日いずれも金曜日13時半

青年センターから

◆ミサ後交流会▼16日(日)(奈良地区)

教区委員会から

◆聖書委員会▼聖書深読8日(土)10時～16時 奥村豊師 場所 河原町会館六階 費用二千五百円(昼食代を含む)、持参品 聖書・筆記用具・ノート(お申込みは三日前までに)

◆典礼委員会▼主日のミサと聖体会

修道会から

◆聖ドミニコ女子修道院▼みことばを聴こう16日(日)9時半 講師 米田彰男師(ドミニコ会)対

象 青年男女 会費五百円(昼食費)申込み締切2月9日電話075(231)2017FAX(222)2573 安達まで

地区協議会から

◆滋賀カトリック協議会▼例会16日13時半 大津教会

小教区から

◆京都コリアンカトリックセンター

▼「韓国カトリックの聖地を巡る旅」4月21日～24日 費用約十万円 問合せ電話075(841)5964 シスター・マリア

教育関係施設から

◆暁星女子高等学校▼卒業式18日

◆京都聖カタリナ女子高等学校▼卒業式22日

◆聖母学院中学・高等学校▼高校卒業式15日

◆日星高等学校▼卒業式24日

◆ノートルダム女子学院中学高等学校▼高校卒業式27日 ◆洛星中高等学校▼高校卒業式8日

聖体拝領について

Q. 聖体をいただいた時、一番大切なイエス様を頂いた時、どこにもお辞儀しなくていい?

A. その場合、お辞儀の意味が問題になるでしょう。それが御聖体に対する礼拝のしすぎなのか、それとも、最高のプレゼントを頂き、ありがとうございました。

Q. ミサで御聖体を頂いたとき、「アーメン」と言つていい方があるようですが、A、「アーメン」と言うのは、これは主の体ですね」と問われて、「はいその通り、主の体です」と個人的に信仰告白することなのです。ですから、アーメンとはっきり答えるのが正しいのです。

「神の子羊の食卓に招かれたものは幸い」と司祭が唱え、「あなたは神の子キリスト、永遠のいのちの糧…」は公の信仰告白です。更に、この個人的な告白を通して一層、主キリストへの信仰を固めて、いのちの糧を

頂くのです。

私たちの永遠のいのちは、いのちの言葉といのちの糧により与えられることも知っています。「アーメン」は、手のひらに聖体がおかれたことの確認ではなく、これはキリストの体であるとの信仰告白なのです。

Q. 何度もミサにあすかり、その度毎に聖体を拝領してもよいでしょうか。A. 原則として一日一回です。但し、特別な集会、例えば、信徒大会、葬儀ミサ、婚礼ミサ、叙階式、修道誓願式、聖体大会など、公に祝われるミサに参列する場合、聖体拝領が許されます。殆どの場合、司式者ないし司会者が、受けても良い旨を伝えてくれるでしょう。

Q. なあ、日曜日のミサが連続して行われる場合、ミサの度毎に拝領される方もあるようですが、それはしないで下さい。そうすることは、聖体拝領の意義をかえつて軽んずることになります。そんなことより、ある聖者は、一日の半分を拝領の準備にあてました。

聖者は聖体と共に生きたの

典礼に関する素朴な疑問
Question & Answer

- ◆「京極高吉の墓—山東町 清滝寺德源院」—9日(日) 13時15分
 集合場所 J R 東海道本線柏原駅
 改札口 講演 三俣俊二先生 参加費 無料▼聖書講座 毎週金曜日
 日と第1、第3月曜日 講師 安藤敬子▼以上いずれも問合せ先
 電話 075(643)2320
- ◆諸施設・諸活動から
- ◆JOC▼働いている青年の集い
 京都働く人の家(九条教会前)、滋賀働く人の家(大津教会裏)問合せ 090(8207)1831
- ◆京都力ナの会▼2月休み
 ◆京都カトリック混声合唱団▼練習日 第2日曜日14時、第4土曜日19時 河原町会館六階ホールまたは和室
- ◆京都キリスト研究会▼定例会
 23日(日) 14時 河原町会館六階ホール
- ◆コーエチレステ▼練習第2、第4、第5木曜日10時~12時 河原町会館六階ホール
- ◆在世フランシスコ会▼京都兄弟会15日(土) 13時半 フランシスコの家
- ◆糠みその会▼例会27日(木) 13時 フランシスコの家
- ◆フランシスカンズ関西▼例会8日(土) 13時 フランシスコの家
- ◆糠みその会▼例会27日(木) 19時45分 九条教会ホール
- ◆レジオ・マリエ▼コミニチューム第3日曜日
- ◆「一万匹の蟻運動」基金報告 累計三三、四八四、二九〇円
 (十二月十六日現在)
- ◆司教座聖堂献堂三十周年・大改修工事竣工と友情献金への感謝
- 司教座聖堂三十周年のための皆様のお祈りと、大改修工事のための友情献金へのご協力をいただきありがとうございました。おかげさまをもちまして、司教座聖堂大改修工事は無事に完了し、二〇〇三年十一月二十三日には、司教座聖堂三十五周年感謝のミサをお捧げすることができます。また、二〇〇二年十一月月末までの友情献金も、皆様のご好意により十二月三十一日現在で一〇〇、一五九、九五一円をいただきました。ここに皆様にお礼とご報告を申し上げます。
- 教区本部事務局長 北村善朗

◆レジオ・マリエ▼コミニチューム第3日曜日

◆「一万匹の蟻運動」基金報告 累計三三、四八四、二九〇円
 (十二月十六日現在)

◆司教座聖堂献堂三十周年・大改修工事竣工と友情献金への感謝

良書紹介

今日は「子どもの祈り」を紹介します。

『かみさまおねがいがあるの』

やくぶん じけむら ひろし

うなひとたちをみんなまわってあるいるんだ: それからぼくのベッドにきてくれるんだ。

【コリース 五才】

【ガブリエル 十才】
 ーわたしはしづかにおいのりします。かみさまがわたしのところにじっとみみをすませていらっしゃるからです。

【ガブリエル 五才】

ーこのまえわたしはともだちとけんかしておこってしました。そのときイエスさまのことをおもいだしました。そうしたら「もうなかなかおりようよ、あそぼう」といいました。

【ジャン 十一才】

ーおいのりするってことはみさまをめでみなくてもかみさまをすきになることだとぼくはおもいます。

【ラファエル 六才】

いかがでしよう、お祈りつてかみさまをめでみなくてもかみさまをすきになることだとぼくはおもいます。

いかがでしよう、お祈りつてかみさまをめでみなくてもかみさまをすきになることだとぼくはおもいます。

ー病気で長くは生きられません よるになるとね、イエスさまがぼくのベッドに来てくれるの そしてふたりでおしゃべりするの こんやもイエスさまといっしょなの?
 ーううんまだだよ だって イエスさまは いまね かわいそ

尚 谷川俊太郎、葉祥明(訳と絵)『かみさまへのてがみ』(二八五号で紹介)は、子どもとの愛の詩の集まりです。

天塚司教の

2月のスケジュール

- 1日(土)故古屋司教衣笠墓参11時
主の奉献ミサ、京都教区
女子奉獻生活者者の会 年
次総会 14時
- 2日(日)日本二十六聖人顕彰ミサ
15時 西陣教会
- 3日(月)聖家族幼稚園感謝の祈り
(河原町) 11時15分
- 5日(水)中央協機構改革委員会15
時
- 6日(木)中央協常任司教委員会10
時半
- 神学校常任司教委員会15
- 8日(土)司教の奈良地区集会(奈
良) 14時
- 典礼部OB年例会18時
- 11日(火)メリノール女子学院創立
40周年記念式ミサ 13時半
- 15日(土)聖母学院高等学校卒業式
10時
- 司教の京都南部地区集会
(河原町) 14時
- 17日(月)~21日(金)臨時司教総会
(中央協)
- 22日(土)京都聖カタリナ女子高卒
業式 9時半

お知らせ

◆帰天

▼シスター柏原鈴子(ヌヴェール愛徳修道会)が12月6日帰天されました。92才でした。



◎心を開いて語ってください
耳を開いて聞いてください
神様のコトが聞こえるように

(MT)

◆編集部から

お知らせに載せたい情報は、
月号でしたら2月17日までに、5
月号でしたら3月17日までに、
京都司教区本部事務局内「京都教
区時報」宛にFAXか、またはE
メールhenshu@kyoto.catholic.jp
にお願いします。

23日(日)青少年担当司祭交流会18
時

24日(月)女子カルメル修道院訪問
14時

25日(火)教区協議会 書記局会議
18時

27日(木)司教顧問会・責任役員会
10時

今年の活動は：

専従者 士岐仁美

皆さん、新しい年が明けて、
早一ヶ月が過ぎました。今年、

初めて『あんてな』を載せます
ので、改めまして、「明けまし
ておめでとうございます」。今
年、青年センターは十五年目を

迎えることが出来ましたことを
心より感謝しております。今年
もどうか宜しくお願ひします。

さて、ここで今年の青年セン
ターの活動予定をご案内させて
頂こうと思います。

まず始めに、奇数月(九月は
除く)の第三土曜日に青年の集
いを行います。(日程などは、
ジョバニ又はHPなどをご覧く
ださい)。そこで、この第三土

曜日の集いを行うにあたり、皆
様の中で「こんな集いがあれば
参加してみたい」など、何らか
のアイデアを持つておられる方、
集いをコーディネートしてみま
せんか?ご意見だけでも構い
ません。

二つ目は、四月十三日(日)
世界青年の日の行事です。昨年
は、「大塚司教と語ろう」と題

した行事が開催されました。今
年の内容は現在計画中です。

三つ目は、昨年の大きなイベ
ントの一つだった「YES=○
○三」です。今年は、十月十一
日(土)~十一日(日)に行う
予定です。これは、昨年新たに

始まったイベントです。こちら
も詳細は未定です。

四つ目に、青年センター運営
委員会です。運営委員会は偶数
月(及び九月)第三土曜日の夜
八時より、各地区の教会で行
っております。また、運営委員会
の翌日ミサ終了後にはその地区
の地元の青年との交流会を計画
しています。

今年もこのような内容で、青
年の活動を行っていこうと思っ
ています。まだ、それぞれの企
画の詳細が決まっていませんが、
決まり次第、小教区にお知らせ
いたします。また、運営委員会
の場所、第三土曜日の日程、世
界青年の日の案内は、青年
センターHPに決まり次第載せ
ていきますので、そちらの方も
ご覧ください。そして、第三土
曜日のコーディネーター、ご意
見なども随時募集いたしており
ますので、青年センターまでご
連絡ください。

青年センター
FAXTEL 075-822-6246
E-mail seinen@kyoto.catholic.jp
HP http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/